

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	131人	国語B	131人
② 数学A	131人	数学B	131人
③ 理科	131人		

5 留意事項

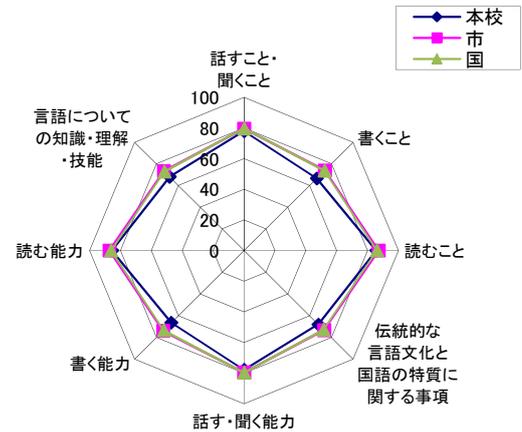
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

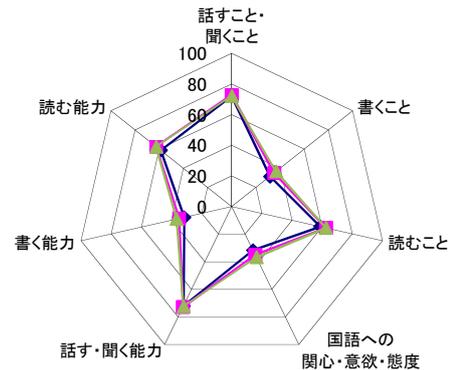
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.9	79.5	79.7
	書くこと	66.6	74.1	73.6
	読むこと	85.6	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.1	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.9	79.5	79.7
	書く能力	66.6	74.1	73.6
	読む能力	85.6	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	68.1	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.0	72.8	72.2
	書くこと	31.6	35.0	36.7
	読むこと	58.8	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	31.6	35.0	36.7
	話す・聞く能力	72.0	72.8	72.2
	書く能力	31.6	35.0	36.7
	読む能力	58.8	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 国語に関する質問では、ほとんどの質問に対して肯定的な回答が多く、全国や県の値を上回っている。特に、「国語は好きですか」「授業の内容はよくわかりますか」「国語は大切だと思いますか」の質問は、肯定的回答が大幅に上回り意欲の高さが伺える。
- 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問では、「どちらかといえば、そう思う」の回答は49.5ポイントだったが、「そう思う」の回答は県に比べ3.2ポイント低い。話し合う活動は積極的に取り入れているが、生徒の実感として課題がある。広がりや深まりを意識した活動の工夫が必要である。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

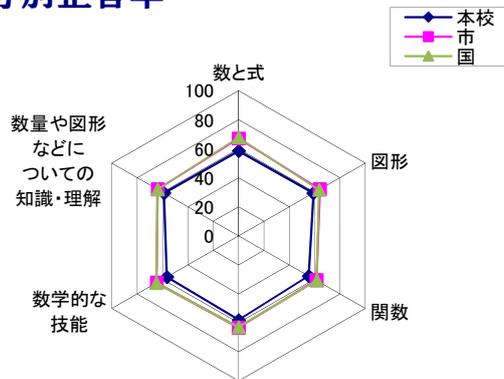
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○スピーチの場面で、聞き手の反応を踏まえて話す問題の正答率が全国に比べて0.9ポイント高い。 ●聞き手を意識して、分かりやすい表現に直す問題の正答率が全国に比べて9ポイント低い。	・聞き手を意識した話し方はできるようになってきているが、さらに効果的に伝わるように、分かりやすくなるように思考し表現する指導が必要となってくる。話し手は聞き手に「訊かせる」を意識し、聞き手は話し手に「話させる」ような相互関係をもった授業を展開させていく。
書くこと	○意見文に対して、根拠の明確さについて助言したり、語句の使い方を工夫する問題では、全国や県に比べて正答率は若干低いものの、8割近い正答率であった。 ●複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く問題の正答率が大幅に低く、全国に比べると8ポイント低い。	・意見文についての必要な知識はある程度身に付いているが、資料を読み解き自分の考えを具体的に書けない生徒が多い。日頃から、新聞の投書や文章の比べ読みを行い、そこから自分がどう感じるのか、どう関わることができるのかという能動的な意見が書けるように指導していく。
読むこと	○登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題では、9割を超える正答率で全国に比べて0.3ポイント高い。また、説明的な文章での問いに対する答えを見つける問題も9割以上の正答率であった。 ●文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨を捉える問題は、全国と比べ3.7ポイント低い。	・文章を読む能力は結果からも概ね身に付いていると考えられるが、説明的な文章の読み取り方の指導が必要になる。筆者の主張を捉え、それを支える根拠を読み取る指導に力を入れていく。その際に、基礎的なことであるが、接続詞や指示語、構成などを押さえて、どのような文章でも対応できる力を身に付けられるように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文脈に即して漢字を正しく読むことの問題が比較的高い。また、手紙の書き方を理解して書く問題では、全国に比べ1.3ポイント高い。 ●文脈に即して漢字を正しく書く問題では、全国に比べ全ての設問で正答率を下回っている。	・漢字に関しては、「読めるけれども書けない」という現状がある。これは既習漢字が定着していないことが考えられる。授業の始まりや終わりに継続して漢字の学習をすることで定着を図る。また、書くことの授業でも辞書を引かせながら書くようにするなど、生徒自身にも意識させて取り組んでいく。

宇都宮市立国本中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

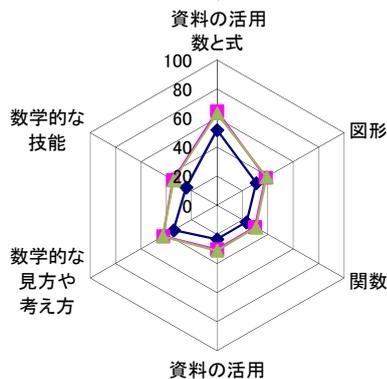
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	58.5	67.0	67.7
	図形	59.0	64.1	63.4
	関数	55.3	61.4	61.7
	資料の活用	58.0	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	56.7	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	59.0	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	51.9	64.8	63.2
	図形	30.9	38.3	39.0
	関数	23.2	29.9	30.7
	資料の活用	23.3	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	34.2	42.6	42.8
	数学的な技能	24.4	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ 数学に関する質問では、ほとんどの質問に対して肯定的な回答が多く、全国や県の値を上回っている。特に、「数学は好きですか」「授業の内容はよくわかりますか」「数学は大切だと思いますか」の質問は、肯定的回答が大幅に上回り意欲の高さが伺える。
 ● 「数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」の質問では、「すべての書く問題で最後まで努力した」の回答は38.9ポイントで、県に比べ10.5ポイント低い。根気強く最後まで時間をとって問題に取り組ませる授業展開の工夫が必要である。

★指導の工夫と改善

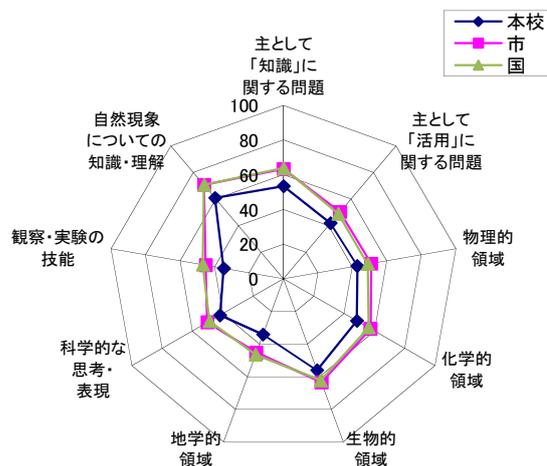
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は自校の他の領域と比較して高い。数量の大小関係を不等式で表す設問の正答率が高い。 ●一元一次方程式や連立方程式が全国平均よりもかなり低い。計算規則の定着に課題がある。 ●式の性質に関わる説明をする設問に対して、論証力に課題がある。	・授業の中で、方程式に関する移項や文字の消去の仕方など、式変形に関わる基本的な事項を、既習事項として再度確認し、反復練習を行う。 ・説明をする力の向上のために、論理の流れを理解するためのパターン練習を取り入れ、書くことに慣れるようにする。
図形	●図形の合同の証明の仕組みの理解に課題が見られる。 ○図形から得た情報をもとに空間における位置関係をとらえたり、新たな情報を読み取ったりすることができている。	・今後、円周角や相似の学習の際に再度証明の流れの確認をする。基本的な図形の性質が身に付くようなパター的な反復練習が必要である。 ・角の大きさや辺の長さを求める問題など、図形の性質に関わる計算問題を確実に解かせ、理解を深めていきたい。
関数	○比例、反比例の性質やグラフの形状について、関数領域の他の問題よりは理解されている。 ●グラフ、表、式との関連については不確かな部分がある。	・形式的な計算はできるが、関数の考え方そのものがイメージできていない。関係式のもつ意味、グラフの意味や見方、表とグラフの関係など根本的な部分の理解を深めさせていきたい。
資料の活用	○確率の意味を理解している。 ●中央値を求める正答率が、資料の活用領域の他の問題に比べ、かなり低い。	・確率の問題では、他の領域と同様に文章を読み取って場面を把握する力に課題があると考えられる。身近な題材を扱うことができる単元なので、興味・関心から高めていきたい。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	53.4	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	41.9	50.3	48.8
分野等	物理的領域	42.9	50.9	48.9
	化学的領域	48.4	57.5	56.2
	生物的領域	56.0	63.4	62.2
	地学的領域	34.1	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	41.9	50.3	48.8
	観察・実験の技能	34.7	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	60.9	70.6	70.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○理科に関する質問では、質問に対し「理科は好きですか」「自然の中で遊んだことや自然を観察したことがありますか。」の質問や観察や実験を行うことについては、全国や県の値を上まわっている。
 ●理科を生活に役立てたり、関係の職業に就いたりすることには関心が薄い。また、事象を予想したり、考えを組み立てたり、結果をもとに考察することの値が、下まわっている。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	○音の波形の比較については、全国の値よりも上まわっている。 ●特に電流、電圧、抵抗の大きさを求めることについては低い。	・授業の中で、順序よく考える科学的思考の力をつけていくことが必要である。また、式の変形など、基本的な事項を反復練習するような問題を行う。
化学的領域	○平均正答率は、自校の他の領域に比べ2番目に高い。 ●濃度の問題や、実験をもとに、結果を把握し、事象を科学的に考察することが低い。	・実験について説明をする力をつけるためにも、事象や、論理の流れを発表したり、書かせたりする訓練をする。 ・基礎的な問題を数多く解くための時間を作る。
生物的領域	○平均正答率は、自校の他の領域に比べ1番高い。背骨のある動物の名称については、県の値よりもよい。 ●自然に対する興味関心は高いが、事象をつないで考えたり、他に利用したりするような科学的な考え方の力が低い。	・見いだした問題を基に、適切な課題を設定できるような質問の工夫をしていく。 ・問題演習の時間を多くとれるようにする。
地学的領域	○自然事象についての知識理解の平均正答率は自校では高い。 ●自然に対する科学的な思考・表現についての平均正答率については低い。	・適切な課題の設定を行えるような質問を工夫し、事象に対する興味関心を持たせる工夫をする。 ・小テストや、問題演習を多く取り入れ、科学的な考え方や、思考力をつける。

宇都宮市立国本中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○国語に関する質問で、「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」など、国語についての質問すべてに対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、栃木県や全国と比べてかなりの高ポイントである。

○数学に関する質問で、「数学の勉強は好きですか」「数学の勉強は大切だと思いますか」「数学の内容はよく分かりますか」「数学ができるようになりたいと思いますか」「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」など数学の質問のすべてに対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、栃木県や全国と比べて高ポイントである。

○理科に関する質問で、「理科の勉強は好きですか」「理科の勉強は大切だと思いますか」「自然の中で遊んだことや自然を観察したことがありますか」など多くの質問に対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、全国と比べて高いポイントである。

○「家で、学校の授業の復習をしていますか」に対する肯定的回答が、全国より11.4ポイント高い。「家で、学校の授業の予習をしていますか」に対する肯定的回答が、栃木県より11.9ポイント、全国より15.9ポイント高い。「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的回答が、栃木県より6.6ポイント、全国より8.8ポイント高い。

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」の質問で、2時間以上という回答が栃木県より4.6ポイント、全国より4.4ポイント高い。「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」に対する回答で、「週に4回以上行く」が、栃木県より5.7ポイント、全国より5.4ポイント高い。

○「朝食を毎日食べていますか」の問いでは、95.4ポイントと栃木県・全国に比べてかなり高い。「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対しても栃木県・全国に比べて高いポイントになっている。「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の問いに対して当てはまる。どちらかと言えば当てはまるが98.5ポイントと高い。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の質問に対して、栃木県より8.0ポイント、全国より10.7ポイント高い。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」4時間以上、3時間以上4時間より少ないと回答したのは35.9ポイントで、栃木県と比べて5.7ポイント、全国と比べて5.4ポイント高い。また、「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の質問に対して4時間以上の回答が栃木県と比べて2.6ポイント、全国と比べて1.2ポイント高い。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いに対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、栃木県や全国と比べて低いポイントである。「新聞を読んでいますか」の問いに対して、「ほぼ毎日読んでいる」と回答したのが、3.1ポイントと栃木県、全国と比べて低いポイントである。

●「学校の規則を守っていますか」の問いに対して、「当てはまる」と回答したポイントが、栃木県と比べて2.9ポイント、全国と比べて3.1ポイント低い。

●「理科の勉強は好きですか」という質問に対しては全国を上まわっているが、「理科の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、全国のポイントを下まわっている。